

所属・氏名（薬学部 薬学科 氏名：田中 満崇）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概要
1 (学術論文) Effects of Repeated Pulmonary Exposure to Carbon Nanotubes on Lung function <筆頭論文>	共著	2019年6月	Toxicology and Environmental Health Sciences 11: 120-124. Springer	カーボンナノ粒子の反復気道曝露は肺の機能に影響を与えることを見出した論文。(4 項) (<u>Tanaka M</u> , Inoue K, Shimada A, Mimura T, Takano H.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
2 (学術論文) Extract of curry powder and its components protect against diesel exhaust particle-induced inflammatory responses in human airway epithelial cells	共著	2019年1月	Food and Agricultural Immunology 30: 1212-1224. Taylor and Francis Group	ディーゼル排気粒子を曝露したマウスにカレー粉を含ませた餌を摂食させるとアレルギー性の応答に影響を与えることを見出した論文。(13 項) (Honda A, Ito S, <u>Tanaka M</u> , Sawahara T, Hayashi T, Fukushima W, Kitamura G, Kudo H, Chowdhury P, H, Okano H, Onishi T, Kawaryu Y, Higashihara M, Nakayama H, Ueda K, Takano H.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
3 (学術論文) Ambient fine and coarse particles in Japan affect nasal and bronchial epithelial cells differently and elicit varying immune response	共著	2018年11月	Environmental Pollution 242: 1693-1701. Elsevier	大気中の微小及び粗大粒子はマウス鼻腔細胞及びヒト気道上皮細胞において免疫応答に影響を与えることを見出した論文。(9 項) (Onishi T, Honda A, <u>Tanaka M</u> , Chowdhury P, Okano H, Okuda T, Shishido D, Terui Y, Hasegawa S, Kameda T, Tohno S, Hayashi M, Nishita-Hara C, Hara K, Inoue K, Yasuda M, Hirano S, Takano H.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
4 (学術論文) Physiological effects of brominated flame retardants on NC/Nga mice <筆頭論文>	共著	2018年2月	Immunopharmacology Immunotoxicology 40 :1-5. Taylor and Francis Group	臭素系難燃剤はアトピー性皮膚炎モデルマウスの皮膚炎を悪化させることを見出した論文。(5 項) (<u>Tanaka M</u> , Inoue K, Shimada A, Takano H.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5 (発表) スチレンモノマーがアトピー性皮膚炎モデルマウスに及ぼす影響	共同 発表	2020年9月	第 69 回アレルギー学会 京都 (web)	プラスチック可塑剤のスチレンモノマーはアレルギー応答を介してアトピー性皮膚炎モデルマウスの皮膚炎を悪化させることが示唆された。 (<u>田中満崇</u> 、本田晶子、小池英子、柳澤利枝、井上健一郎、高野裕久)
6 (発表) ディーゼル排気粒子は抗原提示細胞を介して Th2 免疫応答を増幅させる	共同 発表	2019年6月	第 68 回アレルギー学会 東京	ディーゼル排気粒子はマウス骨髓由来細胞を用いた研究において抗原提示細胞を介して Th2 免疫応答を増幅させることが示唆された。 (<u>田中満崇</u> 、井上健一郎、高野裕久)